

千葉、2018. 7. 26-27

同一症例・同一周期における WOW dish での培養が胚発育に与える効果

和泉 広樹¹⁾、中野 達也¹⁾、佐藤 学¹⁾、中岡 義晴¹⁾、森本 義晴²⁾

¹⁾医療法人三慧会 I V F なんばクリニック

²⁾医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

(目的)

近年、胚をグループ培養可能な WOW dish を用いることで個別培養と比較して発生能が向上するとの報告があるが、同一症例・同一周期で培養検討した報告は少ない。そこで WOW dish と個別培養の成績を同一症例・同一周期で比較した。

(方法)

2017. 9～2018. 1 に 10 個以上採卵出来た症例を対象として LinKID(大日本印刷)群(n=337)、GPS (Lifeglobal) 群 (n=325) の 2 群に分けて培養し、D3ET 可能胚率、BL 到達率、ET 可能 BL 率、良好 BL 率を比較した。次に受精方法別でも比較した (c-IVF; LinKID 群 n=150vs. GPS 群 n=140, ICSI; n=187 vs. n=185)。c-IVF 胚は採卵翌日の受精確認時、ICSI 胚は授精操作後直ちに各 dish で培養を開始した。胚は全て CCM-iBIS (ASTEC) を用いて培養した。

(結果) 両群間で D3ET 可能胚率、BL 到達率、ET 可能 BL 率、良好 BL 率に差は見られなかった。受精方法別では c-IVF 胚において D3ET 可能胚率、BL 到達率、ET 可能 BL 率、良好 BL 率に差は無かったものの ICSI 胚では D3ET 可能胚率 (83.9% vs. 78.4%)、BL 到達率 (68.4% vs. 60.0%) が LinKID 群で向上する傾向が、ET 可能 BL 率 (48.1% vs. 38.4%) では有意に高かった。

(考察) ICSI 胚の LinKID 群で ET 可能 BL 率が向上した。受精方法別による両者の違いは、ICSI 胚は授精操作後直ちに LinKID で培養を行うため、c-IVF 胚と比べ約半日長く LinKID の微細なウェル環境にあるため、オートクライン、パラクライン作用をより長く受けることで胚発育が向上した可能性が示唆された。今後さらに検討を進めたい。